

運動遊び・幼児体育に関する調査研究

保育者の経験が子どもに与える影響に着目して

Research on exercise play and physical education of children

○笹谷絵里¹⁾・荒木慎太郎^{1) 2)}・安達美樹³⁾・大林緑³⁾・山本清文¹⁾

Eri SASATANI, Shintaro ARAKI, Miki ADACHI, Midori OBAYASHI, Kiyofumi YAMAMOTO

¹⁾ 花園大学 ²⁾ 立命館大学先端総合学術研究科 ³⁾ 衣笠幼稚園

Hanazono University, Ritsumeikan University, Kinugasa Kindergarten

Key words: 運動遊び, 幼児体育, 保育者

目的

近年、幼児期の外遊びと小学生の運動習慣・体力の関連について、小学校入学前の外遊びの実施頻度が高いほど、小学生になった時の運動・スポーツ実施頻度の高い者の割合が多いことが指摘されている(スポーツ庁 2019)。実際に、保育者の運動遊び・幼児体育の能力の向上については、保育者が保育経験を積むことで運動場面での援助や指導能力が向上することが明らかとなっている(清他 2018)。だが、幼児の運動に対する苦手意識の改善や運動遊びの指導については、個々の保育者の力量や家庭での経験に任されていることが多い(山下他 2018, 大木 2017)。そのため、本研究では保育者が運動遊びをどのようにとらえ、子どもへの指導に関わっているかの指導状況を明らかにし、今後、保育者に必要な運動遊び・幼児体育の指導における基礎的資料としたい。

方法

本研究は、C 法人に勤務する、保育者(幼稚園教諭・保育教諭・保育士)に対して、2020年7月～8月に「運動遊び・幼児体育」に関するアンケート」実施した。アンケートの回答者は合計76名である。倫理的配慮として、本研究は花園大学研究倫理委員会の承認を受けている(承認番号: 2020-09)。

結果

結果、回答者の80%以上が運動遊びは好きであるとした。一方で、園児に指導する上で困難はありますかでは、「はい」が61名(80%)、「いいえ」が8名(11%)、未回答が7名(9%)となった。具体的な内容としては、「苦手意識の強い子」や「運動が苦手な子への指導」といった子ども自身が運動や身体を動かすことに苦手意識を持っている場合の指導の困難と「自分が苦手なので」といった自分自身が運動を苦手と感じているため、指導が困難との意見に大別できた。「運動遊び・幼児体育の指導について」では、園での運動・遊び指導、実施している場合はその頻度と1回の実施時間及びその内容について尋ねた。結果から、回答者の多くが運動遊び・幼児体育を指導していることがわかった。頻度としては、週1回以上・週3回以上が約6割を占めていた。実施時間は30

分程度・45分程度が約6割を占め、幼児の集中力が持続する時間内で実施されていた。実施内容に目を向けると、幅広い内容で運動遊びや幼児体育が実施されており、幼児の発達を考慮したバランスの良い内容となっていることが分かった。「保育教諭として今後、運動・遊びについて、技術の取得、研修が必要だと思う項目について」の質問の結果、最も希望が多かったのは、器械運動に関する技術の取得についてであった。

考察

回答者の多くが運動遊びを好きと回答していたが、一方で、80%以上の回答者が園児に運動遊び・幼児体育を指導する上で困難があると考えていた。運動や遊びの指導の状況を見ると、回答した保育者の多くが運動遊び・幼児体育を指導していることがわかった。頻度としては、週1回以上・週3回以上が約6割を占めていた。実施時間は30分程度・45分程度が約6割であり、幼児の集中力が持続する時間内で実施されていることが多いこと分かった。今後必要な研修や技術については、多方面の研修や技術の取得が望まれたが、器械運動に関する研修や技術の取得が最も多く希望された。その理由として、「レポートリーの増加や幅を広げる」という意見と「正しい技術や知識の取得」についての意見が多くみられた。

参考文献

清葉子他(2018)『幼児クラスにおける保育者の運動場面での援助・指導の傾向—保育者へのアンケート調査の分析から—』椋山女学園大学教育学部紀要11, 59-68
大木みどり(2018)『幼児期の運動遊びの実態と課題—保育者が指導・援助する上での課題—』羽陽学園短期大学紀要10(4): 27-47
スポーツ庁(2019)『平成30年度 体力・運動能力調査報告書 令和元年10月』スポーツ庁
(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1421920.htm20200612)
山下晋他(2018)『意欲的に体を動かして遊ぶ子どもの育成を目指して—園内研修と家庭との連携を意識した運動遊びの実践を通して—』岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 地域協働研究4, 121-129